

2018年3月15日

各位

株式会社トーヨーエネルギーファーム
三井住友ファイナンス&リース株式会社

ソーラーシェアリングによる太陽光発電事業開始について

株式会社トーヨーエネルギーファーム（代表取締役：岡田 吉充、以下「トーヨーエネルギーファーム」）は、2017年12月よりソーラーシェアリングを活用した発電事業を開始しました。三井住友ファイナンス&リース株式会社（取締役社長：橋 正喜、以下「SMFL」）はこの事業において、トーヨーエネルギーファーム向けに太陽光パネル、架台（最低地上高2.2m）、パワーコンディショナーなどの発電設備一式をリースします。

今般の発電事業は、福島県南相馬市小高区の遊休農地の上部空間に発電設備を設置し、太陽光発電事業とともにパネル設置による日陰の下で育つミョウガの栽培を行うもので、3工区に分かれて実施する計画になっています。本件は第2工区にあたり、2018年3月稼働予定の第3工区も含めると発電規模11.3MW、年間発電規模1,316万kWhの国内最大級となるソーラーシェアリング設備となります。

ソーラーシェアリングとは、農地に支柱を立てて架台を設置し、上部空間に太陽光パネルを配置し、下部で農業を同時に行う事業です。適度な遮光により栽培に適した日照で作物を生産するとともに売電収入を得ることで農業者の収入を増やすことが可能となり、高齢化や農家離れが進む農村地域の振興策として注目が高まっています。

本件の事業地では、東日本大震災以前は全面で耕作が行われておりましたが、震災後は農家の高齢化や避難指示解除準備区域（2016年7月解除）であることから、遊休農地となっていました。今般の取り組みは、遊休農地の有効活用ならびに地域の雇用創出に寄与するものです。また、当該地のミョウガの地域ブランド化にも取り組むことで復興に貢献します。

南相馬市では、原子力から再生可能エネルギーへの転換やその拠点づくり、省エネルギー政策の推進など環境との共生を目指すとしており、復興のための重要な施策として再生可能エネルギーの取り組みを推進しています。

トーヨーエネルギーファームは、国内全域で再生可能エネルギーの他、アグリ事業にも注力しております。兵庫県養父市の国家戦略特区での特区認定事業者として営農と再生可能エネルギー（バイオメタン）を組み合わせた事業を開始するなど、アグリ事業の新たな形を模索する取り組みを行っております。

SMFLは、太陽光発電の他、地熱発電事業、バイオマス発電事業、小水力発電事業等へのリースをはじめとするファイナンスサービスの提供により、多様なエネルギー源による地域共生・地産地消の普及に貢献してまいります。

以上

<お問い合わせ先>

トーヨーエネルギーファーム	広報	古川	TEL 03-5622-5707
三井住友ファイナンス&リース	広報 I R 推進室	五十嵐	TEL 03-5219-6334